

# やまぐち外国語教育だより vol. 4

山口県教育庁義務教育課

小学校の外国語活動が全面実施となった2年目も、残り3カ月余りとなりました。来年度の中学1年生は、全員が2年間の外国語活動を経験して入学することになります。

このような中、外国語活動・外国語科における小中連携を推進していくことが今後ますます必要となります。そこで、今回は主に小中連携についての情報を発信いたします。

## 発信1

### 外国語活動・外国語科における小中連携

#### 🌸 調査にみられる連携の状況 ～カリキュラム作成が課題!～

文部科学省の平成23年度「公立小中学校における教育課程の編成・実施状況調査」(右図)によると外国語教育に関する小中連携は、右の通り年々進んでいることがわかります。

しかし、情報交換は半数以上の学校で実施されているのに対し、カリキュラム作成については、1割程度にとどまっており、今後の課題として挙げられます。

「外国語教育における小中連携の状況」

	21年度実績	22年度実績	23年度計画
連携実施率	55.5 %	63.3 %	72.4 %
情報交換	45.6 %	53.7 %	62.1 %
交流	36.8 %	43.3 %	50.1 %
カリキュラム作成	5.9 %	8.6 %	12.3 %

※中学校の回答による(平成23年度 文部科学省 実施)

#### 🌸 小中連携は3つのステップで ～ 段階を踏んだ連携を! ～

##### 第1段階

##### 情報交換

(例) 小中学校の相互の情報交換  
授業参観  
中学校区の合同研修会



※小中学校間での情報交換も重要ですが、同じ中学校区内の小学校間の連携も大事です。教材や指導方法について連携を図りましょう。

##### 第2段階

##### 交流

(例) 中学校教員の出前授業  
中学校教員と小学校担任によるTT  
児童生徒の交流授業

小学校の担任と中学校英語教員のチーム・ティーチングの場合、それぞれの役割を明確にすることが大事です。



【光市立光井小学校】



【萩市立見島小学校】

交流授業は、中学生にとっては自己有用感を得る機会に、小学生にとっては中学校での学習に憧れをもつ機会にもなります。

### 第3段階

#### カリキュラムの連携

(例) 目標の一貫性  
学習内容の系統性  
指導方法の継続性

中学校においては、小学校での外国語活動を踏まえた指導計画が必要となります。指導計画の作成については、次のようなポイントを大切にしましょう。

#### 【第1学年指導計画作成のポイント】

#### 1 小学校における外国語活動との関連に留意して、指導計画を適切に作成するものとする。

○外国語活動を通じて培われた一定の素地を踏まえながら・・・

○地域の小学校においてどの程度の素地が養われているのかを十分に把握する。

○扱われている単語や表現などについてきめ細かく把握し、特に第1学年の指導計画の参考にすることが大切・・・

(中学校学習指導要領解説 外国語編)

- ① 入門期では「聞くこと」「話すこと」の活動を大切にすること。
- ② 入門期では、文字に触れながら「聞くこと」「話すこと」から英語を「読むこと」や「書くこと」へつなげること。
- ③ 小学校外国語活動で行われる活動や教材を効果的に取り入れて構成すること。(例) 自己紹介、道案内

#### 【指導計画例の紹介】

以前御紹介したサイト(右図)には、小学校と連携した中学校の指導計画例も紹介されています。ぜひ、参考に!

<http://www.eigo-net.jp>

**えいこネット**  
**EIGO-NET**  
現職英語教員のためのポータルサイト

中学校の授業がかわることが大事!



### 小中連携で大事にしたいこと

～子どもたちが英語を学び続けていくために～

#### 小学校



中学生になると、読んだり書いたりしながらどんどん英語が使えるようになるんだ。楽しみだな!

中学校での学習への憧れと期待を!

#### 中学校



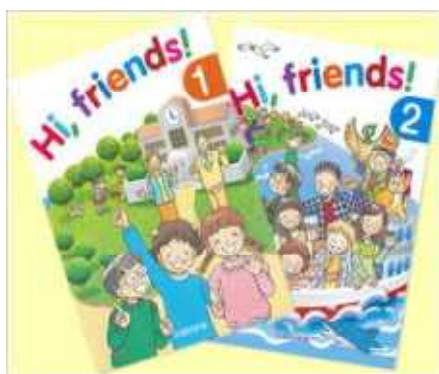
小学校で使っていた表現は、これだったのね。

この活動、小学校でもやったよ。

小学校の経験が役に立っていると感じられるように!

#### 発信2

### 25年度も“Hi, friends!”を配付



今年度から新しく小学校で活用されている外国語活動教材“Hi, friends! 1”“Hi, friends! 2”については、来年度分も配付されることとなりました。(年度末に配付予定)

25年度分については、児童用と指導編のみの配付となり、デジタル教材等の配付はありません。また中学校には配付されません。

なお、複式学級において必要がある場合は“Hi, friends! 1”“Hi, friends! 2”両方の配付が可能ですので、ご注意ください。ご不明な点は各市町教育委員会にお尋ねください。